

平成26年度米子市歴史館運営委員会議事録（概要）

平成26年度事業報告について資料内容説明・報告

（山藤委員） 3つの館の学芸員の専門職としての役割を教えてください。

（山陰歴史館） 2人で、交代で企画展示を行っている。また、問合せは調べて回答している。また、交代で常設展の説明をしている。

（福市考古資料館） 展示物の展示企画、教育普及事業の企画立案などが主であるが、調査室の発掘事業に時間をかなり取られているのが現状である。

（上淀白鳳の丘展示館） 館内や周辺史跡をガイド案内や企画展示、埋文関係との関わりを持って動いている。

（杉本委員長） 今後來館者を増やすには、小・中・高校生に来てもらうのに、地理的、経済的なこともあるだろうが、福市（考古資料館）のように近所の学校しか来ないところに、教育委員会のほうで何か手当てができるのか。

（文化課） 以前のようにバスを借り上げ遠足に何回か出る時代ではなくなり、以前妻木晩田（史跡公園）もバス代援助の試みがあったが、あまり成果がないようだった。今、上淀白鳳の丘展示館が校長会で働きかけPRしているが今後各館もPRをしなければと思う。また学校も忙しいので、こちら側からメニューを提示し、学校側で選べるようにしたい。金銭的な援助はできないので、ソフト面でカバーできたらと思う。

（杉本委員長） 年配者相手の資料館は未来性がないと考える。各館も、3・4年生の子どもに説明の紙を見て読めるよう今後館のほうでも検討してほしい。

平成27年度事業計画について資料内容説明・報告

（南前委員） 山陰歴史館の展示など、私も子どもも字が書いてあると大儀なので、なるべく視覚に訴えるようなものでお願いしたい。戦後70年の企画も同じで、駅前通りも区画整理して昔の家もなくなると昔の米子駅、駅前通りがどうであったか、記憶も薄れ、若い人には今の景観しかわからない。折角古い写真を集める企画なので、ただ単に建物だけでなく、昔の景観をうまく利用して、目で見てわかる展示、字が読めなくてもわかるような展示がなされるとよいと思う。

(長谷川委員) 上淀白鳳の丘展示館の事業などで、鳥取の文化遺産魅力発掘プロジェクトで、部屋が満室になる位の聴講がある。このようなプロジェクトは若い人も来るので継続してほしい。

(杉本委員長) 今年は戦後70年で、戦中を生きた者としては感慨無量である。私の人生にとって大変意義深い展示がなされるのではないかと楽しみにしている。

その他について資料内容説明・報告

・淀江町誌編纂について

昭和58年から平成17年の合併までの旧淀江町誌の編纂に27・28年度の2カ年で取り組むこととしている。委員の方にも色々ご協力をいただくことになるかと思うがよろしくお願ひしたい。

・歴史館のモニタリング第三者評価について

皆さんからいただいた意見を反映しながら、事業展開、施設の運営管理をしていきたい。今後も皆さんにお願ひすることとなると思う。また、来年度からは上淀の展示館も含めた3館にご協願ひしたい。

・山陰歴史館構想の現況について

山陰歴史館の整備を伯耆の国よなご文化創造計画後期計画に位置づけ、米子市役所旧館を文化財として保護保存をし、歴史館として米子市の通史を学べ城山のガイダンスや下町散策の拠点機能整備するため、26年度中に整備構想を、27年度から基本設計の予定だった。26年度は文化課を中心に庁内関係課で構想的なものを固めつつあったが、米子市役所旧庁舎新館と山陰合同銀行の利活用を同時進行で進める方針となり、歴史館単独で方向性が決定しづらい状況となり引き続き検討となった。そのため27年度からの基本設計に若干遅れが生じている状況であることを報告する。

(前田委員) 県博(鳥取県立博物館)の分館扱いで歴史民俗部門をこちらに持ってきてくださいという手の挙げ方はできるか。

(杉本委員長) 足の悪いと2階に上がることもできない。便所も同様で、できるだけ早く、バリアフリーにしてほしい。やはりそういう施設にしないと、博物館として恥ずかしいと感じる。予算等の絡みですぐにはできないだろうが、できるだけ粘り強く実現できるようにお願ひしたい。また、駐車場もバスは入りにくく、うしろにバスが入るような場所がほしい。山陰合銀の跡地利用と絡めて進めてほしい。また新館の2階に膨大な資料が入っている。よそにもっていってしまうと研究体制が弱くなってしまうので考慮してほしい。

その他の質疑・提案・要望

(大村委員) 米子市も「客員研究員制度」を導入してはどうか。時代史は簡単にかけない。各時代毎に人を育てないと次回の米子市史の編纂はうまくいかない。時代史を書くため客員研究員を作り、お金がなければボランティアで、歴史館の活動を通して人材を育てなければいけないのでは。と言いたい。島根県ではどんどん人間を育てている。米子市も人間を育てるということを考えなければならないのだがどうか。

(文化課) 内容は非常に実感としてわかる。次世代を中心に歴史に詳しい人をどのように伸ばしていくのか、難しく課題でもあると思う。客員研究員制度が、実施可能かどうか、どういう手段がよいか、発言されたことを念頭に考えていきたい。

(福代委員) スタンプラリーの効果が実際の入館や利用者等に結びついたのか教えてほしい。また、写真の展覧会など(企画展の)パンフレットは、お金を取って、是非よい印刷で、残るものをリクエストしたい。

(山陰歴史館) スタンプラリーの歴史館入館者は47名だった。目的は、施設を知らない人にスタンプラリーで来てもらうことで、そこそこ数字が出ている。ただし、福市の資料館は、交通の便が悪く施設によって人数の多少があった。

(酒井委員) 印刷の経費は、ソフトを変えたり、紙の質を変えることで大分変わると思う。そういう点をブラッシュアップしていったらよいのではないか。また、今後館の側から子ども達が参加できるようにPRやバス等の利用など取り組みもしたらどうか。

(大村委員) 飯山の頂上の慰霊塔が近く動かされるというのだがどうなのか。

(文化課) 今建っている英霊塔がそのまま残ると思う。飯山になかなか上がれないので、行きやすい「ふれあいの里」に別に作るという動きがあるようだ。担当課に確認をしてみたい。

(前田委員) 要望で、米子城のPRのため講演会などをビデオ収録し、貸出してほしい。